

太田まちづくり市民会議 第1回会議 議事概要

日時	令和5年4月20日(木) 18:30~20:00
場所	太田市役所 本庁舎10階 政策推進会議室
出席	(委員) 中村委員、対比地委員、樋口委員、西村委員、萩原委員、 (事務局) 企画部：高橋部長、企画政策課：矢羽参事、川田課長補佐、川岸主任、 和田主任

1. 開会

2. 委嘱状交付

企画部長より各委員へ委嘱状交付

3. 挨拶

企画部長より挨拶

4. 自己紹介

委員 関東学園大学の教授としてこの地域を中心に生徒を連れてフィールドワークなどを実施している。自分自身は千葉の出身であるが、市とのつながりを持つ機会等を持つ中で段々と太田市の事が分かってきている。固いテーマの話であると思うが、固くなりすぎずに夢のある話もしながら太田市の課題等を皆さんと協議できたらと思う。

委員 WEBや紙等の広告宣伝の仕事をしている。これまでは仕事に重きを置いてきたが、自分の住んでいるまちと関りを持つ機会を持つ機会と思い参加した。

委員 過去に自分ごと化会議に参加して自分の思い描く市の姿と実際の姿を見つめなおすことができた。私は太田市生まれ太田市育ちであるがほとんど太田のことを知らない。設計事務所の仕事柄都市部や太田近郊との関りが多い。私の太田市のイメージは車の企業のイメージ。今太田市は新体育館ができたりと挑戦が始まっているとあっていて、未来の太田がどうなっていくのか共に見据えていけたらと思い参加した。

委員 専業主婦をしていて子どもが2人いるが今は夫と二人暮らし。太田で訪問型子育て支援のお手伝いをしている。私も太田のことをよく知らないが、色々な意見を聞きながら太田がどうなっていくのかを見据えていけたらと思う。

委員 生まれも育ちも太田で太田から一度も出たことがない。子どもが4人いるが子育ての面で太田市はとても自慢できるまちだと感じている。今は孫もいるが、これからの太田がどうなっていくのかなと思っていたタイミングで自分ごと化会議に参加した。仕事で発達障害を持つ子供と接しているが、そういった子供たちが暮らしやすいまちとはどんなものかと考えている。難しそうな話だがあまり固くなりすぎず、子育てが終わった主婦として、女性としての目線で何か力になればと思う。

5. 協議事項

5.1. まちづくり市民会議について

事務局より本会議の主旨等について説明

(会議の主旨)

合併を契機に制定した「太田市まちづくり基本条例」について、社会情勢の変化等を踏まえ、太田市にふさわしいものであり続けているかどうか見直しを検討することを目的として開催する。また、太田市のまちづくりに対する率直なご意見もいただく場としたいので、あまり固く考えずに自由に意見をいただければと思う。

(委員の構成)

「行政の自分ごと化」を主旨として開催した自分ごと化会議の委員を対象に募集し、応募のあった4名と有識者1名の計5名の委員で構成する。

(スケジュール案)

会議は4月から6月まで計3回開催し、その後、事務局で報告書案を作成し、市長へ提言予定。条例の改正が必要と判断された場合は、12月議会への議案提出を目指す。

5.2. 会長、副会長選出

立候補等なかったため事務局案を提示し賛同の意を確認

(事務局案)

会長は関東学園大学で地域をフィールドに教育と研究に力を注いでいる中村委員とし、副会長は自分ごと化会議に参加した市民委員の中から對比地委員にお願いしたい。

- ・ 会長 中村委員
- ・ 副会長 對比地委員

(以降、会長により進行)

5.3. 太田市まちづくり基本条例について

(身近な課題の共有)

会長 固いテーマの話という印象を受けるが、固なりすぎずに協議を進めていきたい。太田市まちづくり基本条例とは地域における憲法のような位置付けとなっているが、条例の細かいところの議論というより条例全体を通してそれぞれの分野についての協議ができたと思う。まずはアイスブレイクの意味も込めて、皆さんが日頃感じている身近な課題の共有をしたい。

委員 子育て中は団地に住んでいて、その時はご近所さんみんなで子育てができていたと感じているが、今働きながら子育てをしている人たちは大変そうに見える。子どもに何かがあった時はまず女性に対応するといった傾向はまだあると思う。また、障害のある子どもの親へのサポートや男性の子育てへの参加等、女性が働きながら子育てしやすい環境づくりが子どもが増えることにもつながるのではないかと感じる。親同士の横のつながりが増えれば悩みや不安を共有しながら子育てができるのではと思う。

委員 デジタル（LINE等）の発達により逆につながりが希薄になってしまっている面があるように感じる。昔は今よりもう少し気軽に友達のお母さんに子どもを預けるなどの事ができていたのではないかと感じる。訪問型子育て支援のお手伝いをしている中で子育てをする中で孤立してしまうケースを見ることがある。また、デジタル化が進む中でそれについていけない人とそうでない人の差があるので、そういったところへのサポートがあると良いのではと感じている。

委員 仕事柄各市町村にこのまちづくり基本条例のようなものがあることは知っているが、正直あまりそれを重視したことはない。どの町も基本的な部分は似ていて、地域の産業等の違いによって色が出ているイメージを持っている。妻は市外にいた人間だが、子育て中は地域にあるコミュニティと

つながりは持っていたように思う。ただし、そのコミュニティの中でのつながり以上のつながりを持つかどうかは、それぞれの人が持つコミュニケーション能力が左右するようにも感じた。デジタル化に関しては、うまく活用できていない人それぞれに教えるとなるとかなりの労力がかかるので、コミュニティのような物を活用する事も考えられる。太田は面白い街だが、どうしても工業のイメージが強く、地域に根差したレストランのようなものは少ないように感じる。

委員 自分にとってはデジタルによるコロナの接種証明は楽でとても便利に感じた。ただ、それを活用できない人がいるのも事実なので、デジタル活用のサポートをする意欲のある人でチームを作る（ボランティア、または職員なのかは分からないが）ことも考えられるのでは。やる気のある人でないと物事は続かない。太田市はスポーツや子育てに力を入れているが、それができるのは自動車産業を中心とした企業からの税収が大きいと思う。ただ、自動車産業等の状況が悪くなった時のことも考えていく必要があるのではないかと思う。自動車だけでなく、スポーツや子育てなど別の武器を整えることも重要なのではないかと思う。

会長 私が課題と思っていることは、太田市は県内で3本の指に入る農業生産高を誇るのに、どうして農業にスポットが当たらないのかと思っている。農業と観光等を絡めるといったことにチャンスがあるのではないかと思っている。

（第1章 総則）

会長 では、ここからは条例の各章に沿って協議を進めたいと思う。

（第1章まで読み上げ）

ここままで何か。参画と協働という言葉はどうとらえていますか。

委員 協働という言葉は仕事の中でよく耳にしているが、参画という言葉はあまり聞くことがない。

委員 参画という言葉よりも参加という言葉のほうが身近なのではと感じた。また、協働という言葉よりも協力という言葉のほうが身近だと感じる。

委員 みんなが分かりやすい言葉のほうが良いのでは。

委員 簡単に言えば、みんなでまちづくりに参加して、協力していくということを行っているのだと思う。

会長 この二つの言葉はこの条例のキーワードだと思うので、ここで示していることがみんなに伝わることが大切だろう。

(第2章 まちづくりの基本原則)

会長 (第2章まで読み上げ)
男女共同参画という言葉も出てきているがどういうイメージを持っていますか。

委員 なかなか平等にはいっていないのではないか。

委員 平等という言葉が出てきているが、福祉の世界では平等という言葉は実は平等ではない。例えば、平等という観点で違う背の高さの人たちに対して同じ高さのフェンスを設置すると背の低い人はその先が見えなくなってしまいが、それぞれの人の背の高さに合わせてフェンスを設置するのが公平という考え方。福祉の世界、障害のある人にとっては平等ではなく公平ということが必要だという。男女共同参画についても、例えば出産にのよように男性と女性ではどうしても違う部分があるので、平等ではなく公平という観点を大事にしないとうまくいかないのかなと感じた。

(第3章 情報の共有)

会長 (第3章まで読み上げ)
太田市の情報共有について何か感じていることはありますか。

委員 回覧板による情報伝達はかつては主流であったと思うが、今の時代はなかなか成立しないのではないかと感じる。それに代わる何かを考える必要があるのではないか。

会長 代わりになりうるものは例えばLINE等ですか。

委員 代わりになりうるのは人だと思う。意欲のある人がフォローしていく必要があると思う。順番や当番制ではなく意欲のある人が実施する体制が望ましい。意欲がないと物事は続かない。

委員 回覧板の話があったが、地域のコミュニティ等については既に崩壊しているように感じる。とりあえず、役を順番で回しているだけのコミュニティであれば必要ない。ただ、地域にコミュニティがないと孤立化が進むのも事実だと思うので、新しいコミュニティのあり方を考える必要があると思う。地域に1人でも中心となって動く人、マンパワーがあればそれぞれの地域が変わるのではと思う。

- 会長 その一人がいないのが実情か。
- 委員 行政が担うべきなのか第3機関が担うべきなのかかわわからないが、新しい枠組みを作ったほうがうまくいくようにも感じる。
- 会長 先ほど地域コミュニティ等が崩壊しているというお話があったが、それは従来の自治会のようなものことか。
- 委員 その通り。ただ、太田市全体というわけではなく、あくまで私の住んでいる地域はということ。
- 委員 回覧板について、うちの地域の例だとどこかの家が出張等で不在のため回覧に時間がかかったときには、その回覧内容が終わっているというケースもあった。うちの地域の場合横のつながりが強いので特に問題にはならないが、そうでない地域であれば問題になる可能性もある。確実に伝える必要のある情報等についてはデジタル技術を使って（たとえばLINE等）各家庭に伝達するなどが将来的にできたらいいのかなと思う。
- 委員 回覧板だと誰かが止めてしまうと情報が伝わらないが、例えば団地にある掲示板のように、地域の掲示板のようなものがあるといいかもしれない。
- 会長 ちなみに市の広報は見ていますか。
- 委員 スマホで見たりもしている。
- 委員 私は見ていない。
- 委員 市長のコラムのみはしている。
- 会長 市の広報誌はすごく手間をかけて作成している。学生の記事を載せてもらった時にも細かいところまでチェックしていた。それだけ労力をかけて作っているものがなかなか読まれていないというのは課題だと思う。どうすれば読まれるようになると思うか。
- 委員 見る側が情報を欲しているかという問題と、見たくなるような情報を発信できているかという問題があるのでは。
- 委員 単純に内容がつまらないから読まないという理由もあると思う。一般的な情報誌などは見てもらうために競争の中で内容を工夫している。文章の更正等に力を使いすぎて内容の部分に力を入れられてないのではないか。なぜ読まないのか、内容が面白かつまらないか等について何らかの形のアンケートで声を拾うことも必要では

5.4. その他

会長 今回は条例に沿って第3章まで協議をした。次回以降も、条例の文言の修正というよりは、条例の各章に沿って関連するテーマについて協議を深めていきたい。

6. 閉会

事務局より次回日程等について説明